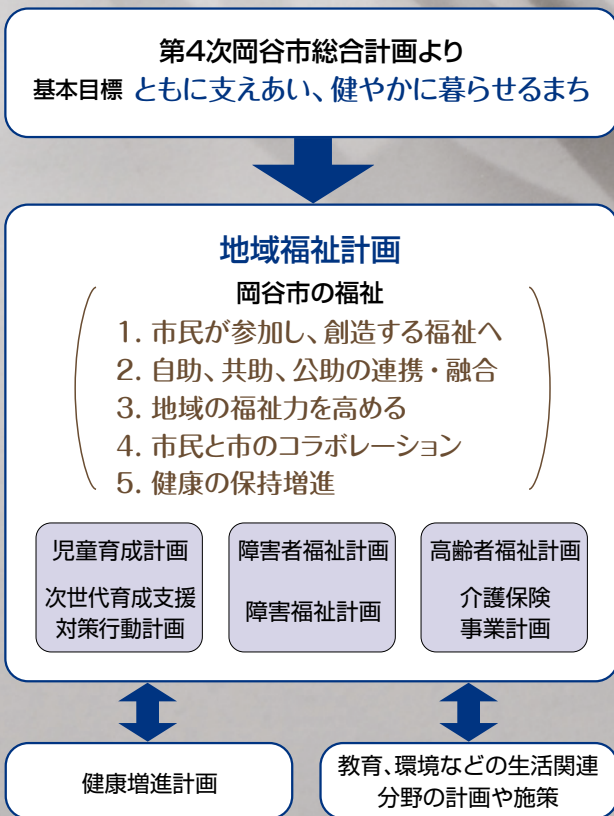


◎特集1

「地域福祉」という時代がきた。
 ともに生きる、支え合う。

支援や介助を必要とする高齢者や障害者が増えている一方、濃密な近所づきあいが失われるなかで、土台となるコミュニティが揺らいでもいます。自分の生活圏で起こっている問題に、自分がどうかかわっていくのか、住み慣れた場所です心安心して生活するためには何をしたらいいか、それをみんなでも考えるのが「地域福祉」です。第2次岡谷市地域福祉計画のスタートに合わせて、今月は地域福祉について考えてみましょう。



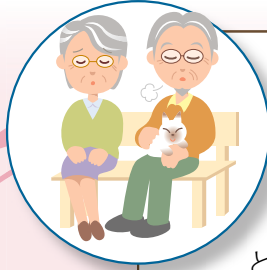
昨年実施した市民アンケートでは、生活に「福祉」とのかかわりはない、と答えた人が全体の7割を占めました。かかわりがある、と答えた人の多くはサービスなどを利用している人。なかには、福祉の仕事やボランティアをしている人も含まれています。

福祉とは、多くの人がそれぞれに問題を抱えて生きているなかで、対処法的に供与されるサービスという考え方が主流でした。しかし、これからの福祉は、一方的に行政に頼るのではなく「自分に何ができるのか?」「自分の役割は何か?」を考え実践していくことです。

「あなたにできることは何ですか?」ともに生きる地域の仲間が手をつなぎ、地域の輪のなかで新しい福祉のかたちを創っていきましょう。

与えられる福祉から参加し創造する福祉へ まずは身近なくらしに目を向けて…

わたし



高齢者世帯の不安

後期高齢者の2人暮らしです。普段の生活に介助が必要です。普段の生活に介助が必要なほどではありませんが、わたしは血圧が高めで、妻はひざに不安を抱えています。18年豪雨災害では、幸い被害はありませんでしたが、もしまた、あのような大きな災害が起こったら、どうなるだろうと心配になります。

あなた

地域の輪

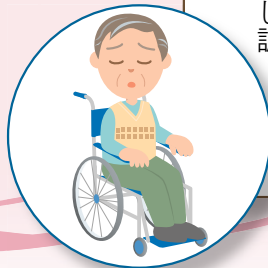
障害を持つ人の経験

移動手段は自走用車いすです。自動車運転できるので、介助してくださる人がいれば、わりとどこへでも出かけられますが、車から車いすに乗り換えるのつて案外大変。ですから、障害者用駐車スペースがふさがっていると困ります。介助者への負担も増し申し訳なく思います。

働くお母さんの困惑

新米の母親なので、子どもの発熱にもあわててしまいます。朝だととくに、医者に行かなくちゃ、仕事はどうしよう…など半分パニックです。共働きですし、両親だとか頼める人も近くにいません。子どものこととはいえ、仕事をそのたび休んでは、さすがに気がひけます。

だれか



地域サポートセンター

子育てから高齢者に関する課題まで、身近な生活圏の問題解決に、地域住民が主体になって取り組むネットワーク。各区の実情に合わせたコミュニティ活動の拠点として、人と人が支え合う大きな輪をつくり、心のつながりを深める活動を推進。地域と行政が連携して安心安全なくらしをめざし、福祉の充実を図ります。

「地域福祉」

早わかりQ&A

♥ 地域福祉って何？
誰がやるの？



高齢だから、障害があるから、子どもだから…と方的に、してもらって、みてもらってではなく、地域の二員として地域サポートセンターなどの活動に参加するか、自分にできる役割を何か担って、みんなが気持ちよく暮らしを営むこと。少子・高齢化が進む社会では、お互いがサポートし合うことが大切だね。必要な時に必要なサービスを誰もが受けられるように、地域全体で双方向の助け合いに努めていくことが必要になっているよ。



♥ そうか、みんなが主役なんだ。ところで地域サポートセンターはどこの？

現在市内10区にあるよ。でもね、センターといっても施設名じゃないんだ。地域の人や団体が連携し、より快適なコミュニティづくりをするために支え合うしくみのこと。自分たちの暮らしを維持向上させるためのネットワークだからね、地域の状況に合わせて、住民がそのかたちを決めていくんだ。



♥ 区にはたくさんのお組織があるよね。組織を統合するの？

どの区でも、高齢者のケアは社協の福祉推進員や民生委員さんを中心に、児童福祉ならPTAや育成会、ほかにたくさんのお団体が、というように、福祉活動は活発よね。

そうしたががんばっている団体の事業を、みんなが応援するためのしくみが地域サポートセンターなの。いろんな団体が連携し、みんながつながれば、活動の谷間が埋まるし、新たな課題に一緒に取り組むことができるでしょ。18年の豪雨災害を教訓に、これからは防災活動なども地域全体で実践していかないと。



まずは、自分のまわりにどんな団体があって、どんな活動をしているか、知り合って協力することがだいじじゃないかしら。

♥ 地域のつながりが大切なのはわかるけど行政では、やってくれないの？



福祉の何もかもを公のサービスとしてやることは、北欧並みに税率を引き上げ、体制づくりをしないこと…。これは現実的ではないよね。これからは自助、共助、公助の時代なんだ。「与えられる福祉」から「参加し創造する福祉」へ頭も行動も切り換えないとね。



♥ そういう時代なんだね。もう少し詳しく知りたいんだけど自助、共助、公助って？



地域福祉の、とても重要な考え方なんですって。自らの責任で生活を営むこと、自立して元気にくらすことが自助の基本。ただし、自分の努力だけでは生活を維持できない場合には、地域や行政の手助けも必要ね。

地域のことは地域住民自身が一番わかるはず。いろんな立場の人が集まって、話し合ったり、知恵や力を出し合って、困っている人を助けるの。それで、ある時は支援の受け手になるし、ある時は送り手にも。相互に連携して助け合うことを共助というのね。

公助は行政の役割のこと。自助や共助をつまぐ機能させるための環境整備をして、あらゆる側面から地域活動を支援することなの。適正なサービスがきちんと行われているか公平に評価し、問題の解決を手助けするネットワークづくりね。



西堀区世代間交流

地域の人みんなが主役

サポートセンターの活動から「うまく生きる」とを探そう

西堀区サポートセンター

平成12年に「いきいきデイ」をスタートさせた西堀区では、同活動を健康増進の取り組みとして活性化。また学校週5日制に対応し、14年6月からは「地域で子育てを！」と「ラムラム広場」を発足、遊びを通じて子どもたちの社会性や豊かな感性を養う活動を継続しています。15年2月、こうした既存の活動を基盤に「西堀区サポートセンター」は設立されました。団体間に横のつながりができると、区の行事を役員だけの義務にしない、自分たちの地域は自分たちできれいにしようなど、地域づくりの声が盛り上がってきました。サポートセンターの活動で、横河川の河川敷も見違えました。景観の美しさはもちろん、防犯、防災の観点からも評価が高く、達成感が区民の一体感を強くしています。

駒沢区地区支援センター

平成16年7月の開設。地域づくり、福祉づくり、人づくりの部会が、世代間交流や健康づくりを図るなか、今年の4月18日には、豪雨災害復興事業の砂防えん堤と林道の完成を記念して「里山記念植樹」を、地区支援センター

のイベントとして開催。区内のあらゆる団体の協力で、小学生から高齢者まで多くの区民が参加。人脈が広がるきっかけとなり、それ以降も積極的に地域行事へ参加する人が増えています。

小尾区地域サポートセンター

中心市街地に位置する小尾口区は、新たな住宅用地などの確保がむずかしく、戸数は300世帯と減少傾向。3人に1人が65歳以上と高齢化率が高いこともあり、区の体力を維持し防災意識を高める観点からも、地域福祉に大きな期待が寄せられ、市内でもっとも新しいサポートセンターとして、昨年8月に設立。いよいよ今年度から実質的な活動が開始されます。隣人同士のつながりと各団体やボランティアの連携を強めた、合理的で活力のある地域運営で、コミュニティの再生をめざしています。

●このほか東堀、小井川、三沢、今井、花岡、岡谷、間下の各区にサポートセンターがあります。

小口区いきいきデイ



地域参画が福祉を変える

福祉にかかわる個別の取り組みを、横断的な構造に改革し、それぞれの地域に必要な具体的で総体的なネットワークにしていこうこと、それが岡谷市地域福祉計画のめざすところですが、その実行と推進は、市民が主体となって担っていきます。

自分という存在の根を求めることで芽ばえる帰属意識、さらに絆から生まれる地元愛や仲間意識が地域社会を築く原点です。

ともに生き支え合う心と行動が、地域づくりの原動力となり、地域と福祉を変える力になります。

「お互いさま」と助け合う社会参加の種をまき、自助、共助、公助の芽を育て、地域の福祉力を高めていきましょう。

問合せ ● 社会福祉課(内線1251)



小井川区いきいきデイ